

平成二十一年度
高等学校入学者選抜学力検査問題

第一部

国語

注意

- 1 問題は、**一**から**四**まであり、7ページまで印刷してあります。
- 2 答えは、すべて別紙の解答用紙に記入し、解答用紙だけ提出しなさい。
- 3 問いのうち、「……選びなさい。」と示されているものについては、ア、イ、ウ、……、A、B、C、……の記号で答えなさい。

一

次の詩を読んで、問いに答えなさい。

(成本和子「ねむねむのひつじ」による)

問一 表現上の技巧として体言止めが用いられているのは、第何連と第何連ですか。

問二 第三連で描かれている、アゲハ蝶が決められた過程を経て羽化していく様子を、**比喩**を用いて表している一行を、第三連以外の連から書き抜きなさい。

問三 この詩について説明した文として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア アゲハ蝶が羽化し飛び立つまでの様子が、敬体を用いて親しみやすく描写されており、また、アゲハ蝶を擬人化することで、作者の、未知の世界に旅立つ者への祝福や、永遠の別れを惜しむ気持ち効果が表現されている。

イ アゲハ蝶が羽化し飛び立つまでの様子が、常体を用いて断定的に描写されており、また、受け身を表す語を用いることで、作者の、人間として生まれてきたことへの感謝や、運命に従う素直な気持ち効果が表現されている。

ウ アゲハ蝶が羽化し飛び立つまでの様子が、文語体を用いて格調高く描写されており、また、受け身を表す語を用いることで、作者の、自然の力へのおそれや、定められた運命に対する不安な気持ち効果が表現されている。

エ アゲハ蝶が羽化し飛び立つまでの様子が、口語体を用いてわかりやすく描写されており、また、アゲハ蝶を擬人化することで、作者の、生命の神秘に対する感動や、小さないのちをいつくしむ気持ち効果が表現されている。

二

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

問一 ――線1を漢字で書きなさい。また、――線2、3の読みを書きなさい。

問二 〜〜線1「洪作は傍に唐平が……思いの中にはいつていた」とありますが、このとき洪作は、どのような想像をしていたのですか。七十五字程度で書きなさい。

問三 〜〜線2「祖父はもうそのことからは思いを移している風で」とありますが、祖父は、どのようなことから、どのようなことへ思いを移している様子だったのですか。最も適当なものを、ア―エから選びなさい。

ア 長い間顔を合わせることがなかった洪作の成長ぶりから、洪作たちをもてなすことへイ 黙って頭を下げたときの洪作の緊張ぶりから、唐平がここに来る途中で言ったことへウ 洪作に会ったのはいつだったかということから、衆さんに洪作たちを案内させることへエ 洪作と唐平とではどちらの背が高いのかということから、衆さんが姿を現したことから
問四 洪作が衆さんから聞いた祖父の業績は、大きく二つに分けることができます。その二つの内容を、衆さんが話した順に、それぞれ一文で書きなさい。

問五 〜〜線3「ほた木などそれまで……美しく見えた」とありますが、この表現からどのようなことを読みとることができますか。最も適当なものを、ア―エから選びなさい。

ア 孤独な生活に対する洪作の関心の高まりを読みとることができる。

イ 豊かな自然に対する洪作の感動の深まりを読みとることができる。

ウ 洪作が祖父を誇らしく思い始めている気持ちを読みとることができる。

エ 洪作が衆さんを信頼しようとしている気持ちを読みとることができる。

三

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

これは、中国の董遇という学者と、彼に学ぼうとした人とのやりとりが書かれた文章です。
 人從ひ学ぶ者有るも、遇教ふるを肯んぜずして云ふ、「必ず当に先づ読むこと百遍なるべし。」
 と。言ふは、読書百遍にして義自ら見るなり。

從ひ学ぶ者云ふ、「日無きを苦渴す。」と。遇言ふ、「当に三余を以てすべし。冬は歳の余り、
 夜は日の余り、陰雨は時の余りなり。」と。

(李瀚「蒙求」による)

(注) 人從ひ学ぶ者有るも——董遇に従って学ぼうとする者があっても。

遇——董遇。肯んぜずして——承諾しないで。云ふ——言う。

日無きを苦渴す——書物を読む暇がなく、困っています。

問一——線「読書」と同じ構成の熟語を、ア、イから選びなさい。

ア 日没 イ 低溫 ウ 往復 エ 避難 オ 推薦

問二——線「人從ひ学ぶ者有るも」とありますが、このように読むことができる漢文として正しいものを、ア、イから選びなさい。

ア 人 有 從 学 者 イ 人 有 從 学 者
 ウ 人 有 從 学 者 エ 人 有 從 学 者

問三 この文章の内容に合うものを、ア、イから二つ選びなさい。

ア 人に教わったことを肯定的に受け入れれば、多くの書物を読まなくても学問の意義が理解できるようになる。

イ 人に教わる前にまず自分で書物を繰り返して読めば、そこに書かれていることの意味が自然とわかってくる。

ウ 人よりも先に百冊の書物を読めば、自分から人に教えることができるほど多くの知識が身に付くものである。

エ 時間をもてあます冬や夜、また雨降りの時などには、今まで読めなかった書物を三冊は読みたいものである。

オ 時間がないとあきらめるのではなく、冬や夜、また雨降りの時などを利用して書物を読むことが大切である。

四

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

問一 ――線「ほしう」を漢字に直し、漢字に直したその「ほしう」という語を用い、次の質問に対する答えを、あなたなりに考えて書きなさい。ただし、答えは、十五字以上、三十字以内の一文とし、句読点や符号も字数に含めること。

質問

この食堂のカレーはおいしいでしょうか。

問二 次の一文は文中から抜いたものです。文中の□ A～Hのうち、どこに入れるのが最も適当ですか、A～Hから選びなさい。

緊密な論理はその結果にすぎない。

問三 ――線1「俳句の表現も……理解しにくいものである」とありますが、「点的論理の視点」からは興味あるものである俳句の表現が、「線状の論理」からは理解しにくいものである理由を、文中の語句を用いて次のように説明するとき、□ に当てはまる最も適当な語句を、文中から五字で書き抜きなさい。

俳句は

表現となっているから。

問四 ――線2「点的論理の背後には陥没した線の論理がかくれて下敷きになっている」とありますが、線の論理は、どのような条件のもとで、どのようにして点的論理になっていくと筆者は述べていますか。文中のことはを用いて七十字程度で説明しなさい。

問五 ――線3「どんなにしても踏み外すことのない太い線をたどること」とありますが、このことを「退屈である」と筆者が言うのはなぜですか。「どんなにしても踏み外すことのない太い線」がたとえている内容を明らかにして説明しなさい。ただし、次の二つの語を使い、解答欄に示した表現に続けて、五十五字程度で書くこと。

解釈の余地

言語的創造

第一部 国語

正 答 表

問題 番号	一			正 答	配 点	通 し 番 号	採 点 基 準
	問 一	問 二	問 三				
問 二	問一			問 三	問 四	問 五	
	1	2	3				
問 三	問二			問 三	問 四	問 五	
	ア	イ	ウ				
問 四	問一			問 四	問 五	問 六	
	①	②	③				
問 五	問四			問 五	問 六	問 七	
	①	②	③				

第一連と第二連(完全解答)	ちいさな儀式	エ	額	す(いて)	そまつ	(正答例) 冬がやって来た時、一枚の葉もなくなり、身を固くして寒さに耐える木々と同じように、祖父はここで自分などの知らなかった孤独な生活をしていると想像した。	ア	(正答例) 祖父が合掌式というほた木の並べ方を発明し、それを教えたことで九州でもみんなその方法を用いていること。	(正答例) 祖父が木干し法という椎茸の乾燥のさせ方を発明し、そのことにより祖父は椎茸を外国に初めて輸出できたこと。	ウ	エ	ウ	イ	オ	(正答例) このカレーのおいしさは、わたしが保証します。	B	省略の多い	(正答例) 線の論理は、相互によく理解し合っている人間同士の伝達という条件のもとで、言葉の筋道の要点以外のどうでもよい部分が欠落して、点的論理になっていく。	(正答例) (どんなにしても踏み外すことのない太い線とは)誤解の起こらないように配慮された表現であり、そうした表現は、解釈の余地が小さく、言語的創造をとまなわないから。	60	
3	3	3	2	2	2	6	2	2	2	3	2	2	3	2	2	3	3	6	6	6	60
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒

問二
①「冬がやって来た時、一枚の葉もなくなり、身を固くして寒さに耐える木々」と、②「祖父は自分などの知らなかった孤独な生活をしている」ことの二点の関係が適切に表現されているものを正答とし、いずれか一方を欠いた場合は三点を減じる。
2 字数については、解答欄の枠内で答えるものとし、それを超えるもの、または、極端に少ないものについては、各一点を減じる。
3 表現の稚拙なもの、不十分なもの、表記上の欠陥のあるものについては、各一点を減じる。
4 減点の結果がマイナス点にならないようにする。
問四
1 ①は、「祖父が合掌式を発明し、それを普及させたこと」が、②は、「祖父が木干し法を発明し、椎茸を初めて輸出したこと」が、それぞれ一文で適切に表現されているものを正答とする。
2 その他については、問二の採点基準3、4に準じる。
問三
問三 順不同とする。
問一
1 「ほしょう」が正しい漢字で書かれており、「保証」の意味を踏まえ文意の通じているものを正答とする。
2 字数については、設問の指示に従って答えるものとする。
3 その他については、③の問二の採点基準3、4に準じる。
問四
1 ①線の論理が点的論理になっていく条件と、②その過程が、本文の趣旨に沿って適切に表現されているものを正答とし、いずれか一方を欠いた場合は三点を減じる。
2 その他については、③の問二の採点基準2、3、4に準じる。
問五
1 ①「どんなにしても踏み外すことのない太い線」がたとえている内容と、②それをたどることが退屈である理由の二点が、指示された二つの語を使い本文の趣旨に沿って適切に表現されているものを正答とする。
2 1の①、②のいずれかを欠いた場合は、各三点を減じる。
3 その他については、③の問二の採点基準2、3、4に準じる。